

## 村内青年との意見交換会概要

開催日時：平成 29 年 9 月 6 日（水） 18：30～20：25

開催場所：大川村山村開発センター 3階ホール

参加者数：村内青年 12 名（20 歳代・30 歳代）

勤務先等：社会福祉団体職員、村役場職員、公社職員、農業従事者

### 【概要まとめ】

- ・ 村民アンケートにおける若者層の回答率の低さから端を発した今回の調査であるが、意見交換会には 20 代から 30 代前半までの青年団員を中心とした若者が多く参加してくれた。
- ・ 日ごろから青年団で活動をしているということもあり、村づくりについての参加意識や関心は決して低くないと感じさせる意見が多く出された。ただし、参加した青年からは、現時点で議会議員への立候補は考えておらず、今後、経験を積み、年齢的にも仕事の成長した更には先においては、立候補を検討する可能性はあるが、まずは今の仕事や青年団活動において村づくりに貢献していきたいとの思いが強いことが感じられた。
- ・ 様々な要望は、直接、役場に伝えることが多いことや、地元では子どもの頃から見知ったひとであるため議員として接することはほとんどなく、議会以外で地域では議員の動きがよく見えない等、議会側と青年側、双方向の接点が少ないことを挙げる声もあった。
- ・ 現時点で、彼らが次期選挙に積極的に立候補する可能性は低いものの、5 年先、10 年先において、更に一步踏み込んで村づくりに参画することの期待へと繋げていくためには、議会活動に関する勉強会等の継続的な開催や、青年団を中心とした社会教育活動等を通じて参政意識を醸成していくことが必要である。

### 1 村政への関心について

- ・ 村政への関心はありますか。
  - ・ 村政や議会について話し合うことはありますか。
  - ・ 村からの情報発信（広報誌、ふるさと放送）をどれくらい見えていますか。あるいは聞いていますか。
  - ・ 現在の村からの情報発信についてどう思いますか。どのように改善すべきだと思いますか。
  - ・ どのような機会があれば村政に関心が持てると思いますか。
- 今回のアンケート調査で 20 代、30 代の回答率が悪かったが、議会がどんなことをするところかがわからない状態でアンケートに答えられなかったのではないかな。
- 回答率が悪かったから、関心がないということではない。村のことを考えていないというわけではない。
- 村民祭や謝肉祭もお手伝いをしていて、村に対してこんなことをやってみようとか、皆すごく関心を持っている。村に対して興味がないわけではない。
- 議会や議員がどんなことをしているかということを、詳しいことが全くわからない状態で、どう思いますかということ聞かれて、関心あるなしの前に、わからない。
- 検討会議で議会を存続するのだという、その程度のことしか話ができない。
- ふるさと放送で議会の放送がされていても、仕事中は聞かない。外にいたら聞こえない。広報誌は自分に関係があるところは見ると。
- 村の議会のことは広報で出ていると思うが、村としてのプロジェクトとかが目に見えてあまり入ってこない。
- 大川村自体の村外に向けた情報発信が少ないのではないかな。ホームページは以前よりは改善されているが。

- どのような組織があるか、外から入ってくるひとが知ることができたら良いと思う。青年団や各団体の情報発信があったら良いと思う。
- 青年団のFB等と繋がりを持てたら良いと思う。
- 目に見えてわかるものが良い。ネットはみんなが見ないと思う。若いひとでも、ホームページとかを開いてまで見ない。チラシとかの配布物のほうが見る。
- 村の中で大きなこと、すごいことがあれば、横断幕を張ったりすることで盛り上がる。
- 部落便はちょっと時期がずれて来る。タイムラグがあるので、即効性のあるお知らせがほしい。その日にわかる一報、情報の発信の仕方が必要。
- 議会の放送は、聞きたいときに聞けたら良い。ネットはつないでないひともいるので、ふるさと放送で空いているチャンネルですずっと流れているとか、再放送を流すのが一番ではないか。

## 2 議会や議員活動について

- ・ 議員活動について知っていますか。
  - ・ 今の議員の働きについてどう思いますか。
  - ・ 議会は必要だと思いますか。
  - ・ どのような議会であってほしいですか。
  - ・ どのような機会があれば議会に関心が持てると思いますか。
- 議会のことを知らない。議会だけをしているイメージで、議員が他に普段は何をしているかを知らない。
  - 議員だからといって、困りごととか、これをお願いするということはない。
  - 何かがあったら、まず役場に相談する。議員をとおして何かを頼るということはない。このひとに頼ったらなんでもできるという感じの考え方はない。
  - 部落ごとの意識は、昔は強かったらしい。地域で議員を押し出して盛り上げていたと聞くが、それが薄れてきている。地域の代表という感じではない。
  - 議員との関わりがない。
  - 議員としてやる気があるひとを、自分たちが応援、後押しして、本当にやる気のあるひとに議員になってもらって、いろんな話合い、意見の出し合いをやっていくのがベスト。
  - 勉強会であったり、議員がどんなことをしているかということがわかってからであれば、話ができるようになる。
  - 議員とは何か、という勉強は興味がある。勉強会などがあれば、参加してみたい。
  - 勉強会は、青年団だけがお願いするのではなくて、村のひと全部を対象にするのが一番良いと思う。そこに興味があるけれどわからなかったひとが参加して、議員になることも考える可能性がある。
  - 大川村では行事が多いので、土日の議会開催でも傍聴には集まりにくいのではないか。
  - 直接傍聴するより、議会の放送を何回も聞けるほうが良いのではないか。昼間は仕事をしているので、事業所で放送を聞くことはできても、議場へ見に行くというのは厳しい。
  - 委員会での話合いの過程、どういう議論があって、どういう話合いができてこういう結果になったという過程を聴いてみたい。

## 3 議員のなり手を増やすためには

- ・ 自分が議員になるとした場合、障害はどのようなことが考えられますか。
- 産業を振興していけたら。畜舎が残っているところもあるので、うまく活用して農家を増やしていければ、自営業なので、議員になりたいと考えるひと出てくるのでは。
  - 会社勤めよりも、自営業のほうが議員になることを考えやすいのではないか。

- しがらみがあるのではないか。
- 4年の単位で任期が終わって、次の選挙で議員になれるのかという心配がある。
- 村の中にも自分たちより上の世代、50代、60代の先輩、退職をされた方がいる。知識の量や考えている思い、厚みなどが全然違う。若いひとが議員になって、熱意や若さで突っ走り、議員になって引っ張ってほしいという話も聞くが、若いひとばかりが出るというのは違うと思う。
- 今の仕事を自分が暮らしていけるようにどれだけ身に付けられるかということが一番の課題であり、なかなか議員になるということまで考えられない。10年、20年経って、仕事が落ち着いてくれば、絶対考える余地があるのではないかと思う。
- 人生経験を積んでいくごとに考え方も変わっていくと思う。今すぐというのは、なかなか考えられない。歳を重ねていけば、考え方は変わるとは思う。
- ひとの性格による。大川村はみんな顔見知りで、プライベートまでわかる距離感。議員だからこれをやって当たり前とかプレッシャーに負けてしまいそうで、自分ではできない。

#### 4 若い人が帰って来てくれる、残ってくれる村づくりについて(大川村プロジェクト関連)

##### (1) 仕事、産業について

- ・現状の村の産業振興策についてどう思いますか。
- ・村に若い人たちが住み続けられるようにするには、どのような産業分野の振興に注力すべきと考えますか。

- 農家で法人化してひとを雇用するようなどころが増えたら良いと思う。
- 高齢になって農家をやめたひとも多いので、農機具など使っていないものが結構あると思う。その貸し出しの中間的な仕組みがあれば、借りたいひともいるのではないか。
- 外からひとが来て、村のひとが刺激を受ければ、村も活発になっていくのではないか。外からひとが入ってくるため、ブロードバンド環境など基盤を作ること。
- 田舎に行くと、よく古民家カフェや民宿があるが、大川村には少ない。なかなか生計を立てるのは難しいと思うが、何かバックアップが必要。
- 住める家でも住むひとがいなくなっている。そういう家を買って取り、そこを利用するひとが経費をかけずに内装を改修してバーやカフェにすれば、それだけで産業になるのではないか。

##### (2) 観光について

- ・現状の村の観光振興策についてどう思いますか。
- ・どのような観光振興が望まれますか。

- 大川村は自然しかないというところを、大川村ならではの地形を活用した仕事があったら良い。そこをどううまく仕事にしていくか。
- 他所からひとが来て、大川村にある自然はすごいと思えるものだと思う。自然を活用して産業を作り上げていくことができれば良いと思う。
- 登山とダムを使っての遊び、山と川で大川村でしかできない遊びは面白そう。観光につながると思う。

##### (3) 生活支援について

- ・移動手段や生活物資の確保、住宅建築など、より暮らしやすくするための現状の村の生活支援策についてどう思いますか。
- ・若者の村内への定住を図っていくうえでより暮らしやすくするためには、どのような生活支援が望まれますか。

- 若いと水元を見に行けるが、水元が管理されるようになれば、高齢者も村外から来たひととも助かるのではないか。
- 難しいが、診療所が常駐化できればありがたい。
- 今の高齢者は、買い物は移動購買が来てくれるのでそれほど不便には感じていない様子。診療所以外に自分で病院にかかったりするのための移動は不便に感じているのではないか。
- 若いひとが帰ってきてくれるためには、住むところと働く場所が大事。家庭を持って子どもを育てていくためには、医療も必要になってくる。

#### (4) 共通

- ・村を活性化させるために、若者としてどのようなことができるのか、またやりたいことがあれば教えてください。

- 仕事がないと生活できない。長く居続けられるために、仕事が必要ではないか。
- 村民祭は頑張って続けて行きたいと本当に思う。お盆に帰省で帰って来るひとたちが集う場所にもなっている。楽しみにしてくれている村民もいる。村民ではないひとたちでも、例えば卒業した留学生たちが来てくれたり、高校生たちが手伝いに来てくれたりする。そういうつながりを大事にしていきたい。
- 目の前にある早明浦ダム湖を何とか利用したい。村を盛り上げるためにSUPのイベントなどをやってみたい。
- 村を知ってもらうため、村の駅を活用して音楽のライブやダムを使うイベント、ひとを呼ぶイベントを開催してみたいと思う。

#### 5 その他

- ・村政に対してご意見があれば、どのようなことでも聞かせてください。

- 子どもたちに村に関心を持ってもらいたい。子どもが村の状況を勉強する機会があれば、村に関心が高まるのではないか。子どもたちも巻き込むことができたら良いのではないかと思う。子どもたちの案を聞いてもおもしろいと思う。
- どういう仕事があるかといったことや、大川村にどういう会があって、ひとを募集しているといった情報の一覧をホームページなどで見ることができたら良いと思う。
- 青年団が前に立っているいろいろなことをやっていくことは、村を盛り上げていくために大事なことだとは思っている。ただ、青年団員も他に仕事がありながら村のことをやらなければならないので、だんだんひと減りつつ、負担にもなっているということがある。青年団だけでなく、例えば農業集団などいろいろなことをやれるひとたちがいるので、そういう団体、ひとたちをどんどん巻き込んでいって、村がひとつになることで、いろいろなことを考えていけたら良いと思う。
- 青年団もちろん頑張るけれど、いろいろな視点を持っているひとがいるので、そういうひとからも意見を聞いたりすることで、この問題を解決できたらと思う。そういうひとが議員になってもらえるかもしれない。